

【熊本県賞】

切っても切れない水と私たちの生活

熊本県

氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 一年 小田 莉子

「水の音はいやされる」「きらきら光ってきれい」「美味しい！」私の住む熊本の水は、とても美味しいです。何十年もかけてミネラル分などの養分をバランス良く含みながら天然の地下水として、私たちの生活をうるおしてくれます。そのため、食べ物も美味しいのです。また、熊本が繁栄してきたものが水が関係するそうです。反対に水害被害もたくさんあったようです。

身近な水害被害として、令和二年の七月豪雨災害があります。私の母が勤める坂本町では、大きな被害がありました。

水害が起こった日、朝からあわたしく母の電話が鳴り続けていました。「助けてください！」や「もう家が二階までつかりました。」「死ぬかもしれない。」などの声が電話から聞こえていました。テレビをつけると球磨川が大変なことになっているのです。私が住む地域に水害の被害はありませんでしたが、影響として、断水が一日ありました。たった一日でしたが、急な断水で大騒ぎをしました。

水害が起こった日から数ヶ月が経ち、母が私と弟を坂本町に連れて行きました。水害が起こる前に訪れた坂本町は、のどかな田舎町で球磨川の水はおだやかに流れ、きれいでした。それが私の知らない風景に変わり、道路があちこちと崩れていました。家があった場所に家は無く、家があっても住める状況ではなく、人がいない町に変わっていました。色に例えると茶色や灰色のような感じでした。球磨川をのぞくと流された橋や車などがぐちゃぐちゃと曲がったかたまりが残されたままでした。流されなかった橋には、流木などの流れてきたものが無数に刺さったままです。何度も訪れて知っている町なのに、別世界にきたような不思議な気分でした。鉄がねじ曲がった様子を見て水の力に驚かされました。私のイメージする水は、マイナスな考えに変わ

りました。水が怖いですが、でも、水は生きるために必要な物です。もやもやとした気持ちがあります。なのに、被害にあった学生の方には、水害によって気が付かされたことがあるそうです。

水害によって変わり果てた地域を元氣付けたい思いや地域に対する地域愛が出てきたそうです。失ってしまったからこそ地域の大切さに気が付いたそうです。そして、球磨川も変わらない大切な存在だと思います。そのような考えができる学生の方をすごいと思いました。水は怖いですが、生きていくためには、切っても切れないのが水なのです。

日本の水は、世界に誇れます。なぜならば日本のどこの蛇口をひねってもどこを訪れても水がきれいだからです。ですが、私が生まれてから現在まで当たり前のよう存在している水。「水を大切にしよう」や「水の節水にご協力を」と貼り紙があっても気にしない人もいます。テレビで見ると、にごった水を使ったり、毎日の水汲みをしなくてよかったりと困った経験が無いことも大切にしない原因なのかもしれない。

自然の力には人間は勝てません。水害があっても共に生活していかなければならないけません。自然の水に感謝すること、その水を生活に適するように管理してくださる方々に感謝しながら生活を送る必要があると断水や水害のことを知って学びました。

今ある資源を未来に残すために大切に使うことや水害が起こりにくい環境にしていく努力を一人一人が大切にしていこうためにも、まずは、身近な人たちに大切な資源を大切に使うことや水害が起こりにくい環境にしていく努力を一人一人が大切にしていこうためにも、まずいきます。

私の次の世代が困らないためにも。